NEW HIKARI
社会への奉仕と信頼のマーク

ひかりニュース

株式会社 清水

創業70周年記念号

January 2017

308号

2016年11月20日 河口湖にて撮影

清水株式會社

『年頭ご挨拶』

代表取締役社長
清水 修

明けましておめでとうございます。
皆様お揃いで健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。
昨年は格別のご支援を賜り、心から御礼申し上げます。
どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年ほど国内外で予想外、想定外の出来事が多くあった年も珍しいと思います。中でも今月正式にアメリカ大統領になるトランプ氏、選挙中の政策を全て実行する事は出来ないでしょうが、修正次第では意外に良い政権になると思います。そしてもう少し経済政策と同時に、アジアの安全保障問題にも是非興味を持って頂きたいと期待を致しております。
何れにしても世界の中の日本、自分の国は自分で護る、自分の城は自分で護るという時代に益々なってきたように思っています。

本年、当社はお陰様で創業70周年を迎えることが出来ました。謹んで皆様方に心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

今年は「THANKS & ADVANCE」(感謝と前進)、皆様と共に飛躍する1年にしたいと願い、各地のシミズフェアで最新の情報、お役に立てる提案を提供させて頂く所存でございます。どうぞお揃いでのご来場をお待ち致しております。

皆様にとりまして、本年が素晴らしい一年になりますよう、心からお祈り致しております。

前列
取締役 東京支店次長 清水 俊雄
常務取締役 藤原 修
取締役会長 清水 宏祐
代表取締役社長 清水 修
専務取締役 清水 雅揮
取締役 企画部長 兼 播州支店長 柳田 顯

後列
新潟支店長 田中 秀作
総務部 係長 澤山 尚之
東大阪支店長 大島 和憲
仙台営業所長 相澤 昭
札幌支店長 福士 喜久
福岡支店長 渕上 悟
名古屋支店長 杉本 憲彦
商品管理部 主任 沢井 明
DIY事業部 ゼネラルマネージャー 上野 宏
執行役員 東京支店長 松原 直哉
企画部 係長 西田 浩司

賀状にかえさせていただきます。

『優良な長寿企業』

取締役会長
清水 宏祐

あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。
私ども 清水株式会社は皆様の温かいご愛顧とご支援のお陰で、
本年創業70周年を迎えることが出来ました。
ありがとうございます。

当社70年の歴史を顧みますと、創業者の清水進一が昭和22年の開業から平成5年までの生涯を通して、多くの同志社員と社業発展に邁進し、今日の礎を築き上げてくれました。
これら多くの先達が残した輝かしい足跡に敬意を表すると共に、この70周年を新たなるスタートと決意し、ただただ年月を重ねるだけではなく、健全で優良な長寿企業に、加えて社会への貢献を目指し次なる80年、90年、100年に向かいたいと願っております。

産業界全体が激しく変化する中、当社としましては、独自の考えと積み重ねてきた経験を活かし、「守るべきものと、変えるべきこと」を柔軟かつ果敢に進めたいと思っております。100年続く企業の秘訣は、「守りと変革」のバランスに優れていることと聞きます。
今後とも多くのご厚情を真摯に受け取り、皆様に愛される長寿企業となるよう頑張って参ります。

皆様にとりまして、佳き一年でありますようお祈り申し上げます。

清水株式会社 シンボルマーク

このシンボルマークは
SHIMIZUの“S”を表わしています
そして (C)はクリエイティブ(創造の)
(D)はディーラー(商う人)
が組合わされ 清水株式会社の使命と役割を
象徴しています

5つの経営理念

1. 社会貢献
事業活動を通じて社会的責任や貢献を果たすこと

2. 経営連帯
人間尊重による社会と団結の共生的経営

3. 信用蓄積
信用という財の創造、蓄積が存続につながる

4. 適応革新
時代に適応したイノベーションを行うこと

5. 創造提供
社会に必要な商品・情報を創造し、提供すること

創業70周年に寄せて

株式会社 みずほ銀行
常務執行役員　浅野 眞吾

このたび創業70周年を迎えられ、まことにおめでとうございます。
人でいえば古稀（こき）になりますが、古稀とは「古くて稀（まれ）」と書きますが、これは古来、70歳まで存命するのは非常に稀であったことから来ているようです。企業でも70歳を迎えることができるのは、今のような変化が激しい時代の中にあっては非常に稀と言えるのではないでしょうか。

建築金物、インテリア金物を取り巻く環境は目まぐるしい変化を遂げており、時代の流れや顧客の嗜好などを踏まえた商品開発にはご苦労されているものと推察いたしますが、毎年開催されております「シミズフェア」ではマーケットニーズに即した新商品を多数展示されており、貴社の商品開発力は年々向上されているのではないかと感心しております。

日頃お取引をさせていただいております私どもの東大阪支店もこの1月に70周年を迎えることとなりまして、非常に近しい縁を感じております。

私どもは「進化する"One　MIZUHO"～総合金融コンサルティンググループを目指して～」をスローガンとして、グループの総力を結集したコンサルティング機能を発揮し、最適な金融ソリューションを迅速に提供することで、貴社の益々のご隆盛を微力ながらお手伝いさせていただく所存です。

最後になりましたが今後益々の貴社のご繁栄と社員皆様方のご健勝、ご多幸を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

大阪建築金物工業協同組合
理事長　出向井 康司
（日本ドアーチエック製造株式会社 取締役社長）

創業70周年おめでとうございます。建築金物総合商社として昭和22年に設立され、これまで人と環境を大切に、また配慮した商いをされてきました。

ひと口に70年と申しますが、今日のようにいろいろな情勢が変転きわまりなく、先行きが不透明で見通しのつけにくい世の中では、ひとつの企業が継続していくということは生易しいことではありません。この間の経営陣の方々、並びに社員の皆様の勤勉努力は並々ならぬものがあったと思います。

景気はいまだ足踏み状態ですが、建築関連につきましては、今後しばらくの間、仕事量はあると言われますが、人手不足や工期・予算等で大丈夫かと懸念されております。

さて、弊社といたしましては、清水株式会社様とお引取きさせて頂きまだまだ日も浅いのですが、メーカーとしてモノづくりに徹して、多くのお客様から幅広く同時に、深くニーズをすくい上げ、関連部署へ情報などを展開しながら知恵を集約し、お役に立てる付加価値の高い良質な商品を提供していくことに尽力してまいります。今後とも、よろしくお引き立てのほどお願い申し上げます。

これからも業界・社会に貢献され成長・発展されますことを、心よりお祈り申し上げます。

三条金物卸商協同組合
理事長　長岡 信治
（株式会社ナガオカ.リコー 代表取締役社長）

創業70周年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。三条金物卸商協同組合を代表して心よりお慶び申し上げます。

また日頃は当組合の組合員として積極的に事業に参加していただき誠にありがとうございます。1967年に新潟支店を開設し、間もなく三条でシミズフェアを開催していただき三条の金物卸問屋の発展に大きく貢献されました。

バブルがはじけ、またリーマンショックという不況の中でも積極的に三条見本市を続けて行っていただきどれだけ三条の金物問屋が助けられたことでしょう。

心から感謝申し上げると共にこれからもこの地三条で末永く素晴らしい商品と情報を提供していただくことと清水株式会社様の益々の発展を祈念してお祝いと感謝の言葉と致します。

名古屋建築金物卸商組合
理事長　大橋　豊
（大橋屋株式会社 代表取締役社長）

昭和22年、戦後の荒廃が残る大阪で清水株式会社様はその産声を上げられました。

以来70年にわたり社業ならびに金物業界の発展に寄与され今日の隆盛を築かれました。景気の浮き沈みが激しい中、長年にわたり安定して「良い会社」であり続けたのも、健全なるオーナーシップによる経営と社員の皆様方の不断の努力の賜物であります。

毎年各地で開催されている「シミズフェア」に代表されるように、「継続は力なり」を実践してこられ、樹木が年輪を重ねるように着実に成長をしてこられました。

これからも業界のリーディングカンパニーとして益々のご発展を祈念しますとともに、創業70周年を心よりお祝い申し上げます。

創業70周年に寄せて

ひかり会
会長　永島 康博
（株式会社カクダイ 代表取締役社長）

新年明けましておめでとうございます。本年を以て、清水株式会社様は創業70周年を迎えられます。誠にめでたく、重ねて心よりお慶び申し上げます。

　創業以来業界の中心的な存在としての歩みを続けられ、大きな節目である60周年を無事に迎えられ、いわば第二サイクルに入られており、これで10年を経過されたことになります。
その変化に着実に対応されつつ、清水株式会社様はこの10年を力強く歩んでこられました。
これからもその歩みは停滞することなく続くでしょう。そして、我々ひかり会の会員各社は、その歩みをひたすらこれからも追い続けさせて頂くことになるかと存じます。どうか宜しくご指導の程を。

ひかり会歴代会長

初代 会長
谷 勘一郎 様

二代目 会長
熊代 喜八郎 様

三代目 会長
池田 定雄 様

四代目 会長
荻野 多喜夫 様

1949年（昭和24年）度 総会（三方五湖）

2007年（平成19年）度 総会（天安門）

2002年（平成14年）度 総会（熊本城）

業界に大きな足跡を残す

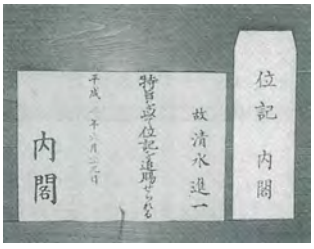
故　創業者

清水 進一

1973年　藍綬褒章受章
1986年　勲五等双光旭日章受章
1993年　従六位

1973年11月28日
東洋ホテルでの祝賀会

1986年6月13日
ロイヤルホテルでの叙勲祝賀会



1986年春の叙勲 授与式にて

金物の町を造った男

「千成瓢簞」（株式会社 JDC発行）より

昭和42年２月1日、日本で初めての商業団地、「大阪金物団地」が完成した。計画から数えて7年後、当初137社の組合員が88社に減っていた。それは、ここに至るまでの紆余曲折を雄弁に物語っている。

同年の11月に挙行された完成式典で、理事長の清水進一氏は次のように語った。

「過去6年の長いあいだ、ずっと今日の夢を見てきました……」

清水氏にとって、長い日が続いた。孤独の味を噛みしめた6年だった。

用地買収の苦労、次々と離れてゆく組合員、何より本業との両立がいちばん苦しかった。

だが、記念式典に臨むいま、長年の努力が報われた安堵で、全身から力が抜けていくようである。かといって仕事はここで終わったわけではない。

同業社がひとつに集まった問屋団地として、各界から浴びせられる視線は並み並みならぬものがある。88社それぞれに負債も抱えている。一層の奮起を計らねばならないだろう…。

＜着想は交通麻痺から＞

昭和30年代半ば、船場周辺に店を構える商店主たちには共通した悩みがあった。

交通の混雑である。出庫に入荷、得意先の車等が列を並べ、あたりは常にごった返している。そこに一方通行や駐車禁止が追い打ちをかける。清水進一氏も、それに頭を痛める一人だった。当時、清水金物株式会社は周防町に位置していた。

「清水さん、おたくの店にはもう行けまへん」

顧客の一人がいった。駐車違反が原因である。罰金をとられてまで買いにくるのは馬鹿らしいというのだ。

「うちで罰金持ちましょう」清水氏はいったが、無駄であった。このときにつくづく思う。

口には出さないけれど、他にも難儀しているお客さんは多い筈だ。何とかしなければならない…だが、方法がなかった。

もとより個人の力でどうこうできる問題ではない。交通行政の怠慢を改善しようにも、増え続ける車にはとても対応ができない。抜本的な解決策などないのである。

(大阪のまん中で商売していて果たして良いのか。お客さんに迷惑をかけないもっと広い場所へ移った方がいいのではないか)

この疑問が、金物団地建設の出発点だった。

ある日、(今でも覚えている、と氏は語る。昭和36年3月14日)日経新聞に、興味を引く記事が掲載されていた。

『政府は近く、「中小企業振興助成法施行令」の一部改正を閣議決定する予定である。

これは、同業の中小企業が20社以上集まって団地を作るときには、税金の優遇措置のほか用地買収費の半額を国と自治体が無利子で融資する』

大意このような内容であった。

よし、これを活用しようではないか。清水氏は早速府庁へ出向き、詳細を尋ねてみることにした。中小企業庁に問い合わせてもらうことになり、帰るその足で趣意書を200社に郵送した。

同様の悩みを抱える者は業界内にも多かったとみえて、150社余りから反応が寄せられた。

数日たって、府庁工業課から回答があり、それによれば ――――

残念ながら問屋には適用されない。優遇措置はメーカーだけを対象としたものである。

応対に当った職員が付け加えて言った。「商売人は独立心旺盛だが、協調性に欠けている」

団地建設など無理ですよといわんばかりである。

一度はこれであきらめかけたが、「せっかく集まったのだから、われわれが自力で土地を捜そうではないか」と言い出す者があった。

いきがかり上、清水氏は世話役を余儀なくされる。この時、氏は47歳。気力体力とも充溢していた。当時を振り返って言う。

「実際、若さがなければできる仕事ではなかった。海のものとも山のものともわからないし、150社もの同調者がいたが、そのほとんどは便乗組」。

自然と自分の力を頼みにしなければならない。甘言で釣るのではなく、むしろ中途半端な気持ちでいるものをふるいにかけるのだ。「どこからも金は出ない。税金の優遇もない」と強調した。

その結果、120社ほどに減って、「大阪金物問屋集団移転協議会」が発足。渉外、融資、敷地の三対策委員会が設立される。清水氏は、会長に選出された。一度は固辞したのだが、全員一致の要望でもあったので、結果的には受入れざるを得なかった。共同事業であることを再確認して就任する。

その頃には、目に見えない勢いがついていた。皆に押し立てられる手前、いまさらひっこみもつかない。仕事もあるのに、だんだんと協議会に割く時間が多くなる。

これは、命を賭けなければならないのではないか……大きな不安が氏を襲った。

＜二転三転の土地買収＞

まず、金である。土地だけでも2億はいる。

協議会では、各都市銀行の支店長を招き、率直な意見を聞いてみることにしたが、はかばかしい答は得られなかった。

共同組合でもない協議会には、とても金は出せない。ただし、個々にならOKである。

この頃、並行して土地の物色が行われていた。必要とされる坪数は、45,000坪ないし46,000坪。もとより大阪周辺は不可能とわかっていたので、まず茨木の山が候補に上がった。「北の方に狙いがあった」と回想する。

名神高速に隣接したいという希望があったのである。

視察には苦労が多かった。既にマスコミ等で、「大阪の金物屋さん、集団引っ越し」と騒がれていたため、ブローカーの暗躍を防がねばならなかった。買い占められて値を吊り上げられてはたまらない。だが、この山は必要とする広さに満たなかった。

次の候補地は吹田に見つかった。丘陵地帯のため造成の必要はあったが、周囲の環境が良いことから組合員の評判も上々である。更には、地主の中に不動産業社が一人いたため、交渉もトントン拍子に運んだ。

九分九厘決まったのが昭和36年の9月。

「そこで一応、大阪府に挨拶に行こうということになった ――――― 」

台風の日だったという。嵐の中を歩いたのは、いまに至るも鮮明に覚えている。この挨拶に出向いたことによって、用地買収の長い道乗りが始まった。

「丘陵地帯でなければだめですか。平地では？」

企画計画課長が異なことを言い出した。もちろんいけない筈はない。平地があればこれほど結構な話はない。聞くと、布施市で誘致しているという。即、電話してもらった。産業部長が電話口に出て、はっきり「ある」と確約した。

総会では荒れた。吹田だから移転する気になったという者や、ごみごみした布施には行き

たくないという者が続出する。

席上、氏は深い孤独を感じていた。発言している者の中には、氏が頼りにしていた人物が多く含まれていたのだ。

誰のためでもない、皆のためにやっているのに……理解してもらえない苦しさが胸を衝く。

「使命感だけで耐えていた」

業界への奉仕から発心した計画でありながら、あまりにも理解されるところ薄かった。

吹田のキャンセルには、悲壮な覚悟で出掛けた。鉄兜をかぶっていきたいぐらい、の気持ちである。

幸い、地価が急上昇していた時期だったので、「縁がなかった」で済んだが、むしろ本当の苦労はこれからだった。

産業部長の確約は、ほとんど事実無根に等しいことがわかった。誘致は確かにしている。

しかし、肝心の地主には意思の統一が欠けていて、買収の話があって初めて集まる始末である。支持政党の違いから、保守と革新に別れた内輪もめまで起こる。

地主の一人が「金物団地を誘致する協議会会長」の肩書で市議会に立候補、当選する笑えないエピソードもあった。おかげで買収交渉は紛糾するばかりである。

詰めるまで3年かかった。一軒一軒土地確保に訪問して歩き、眠れない日が毎日のように続いた。

さて、金であるが、大阪信用金庫へ相談すると「清水さんが責任者なら何億でも貸しましょう」と、理事長が言ってくれた。ただし、積立をしてほしいという。

希望の坪数に応じた額の積立をやることになったが、ここでも脱落者が出た。

88人 ── これが最後まで残った人々である。

「人の心は、苦境に立って初めてわかる」

氏が感じた強い孤独感と重ね合わせるとき、この言葉は絶望をもって迫ってくる。やわらかい表現をとれば、指導する者が宿命的に持つ悲哀といえようか。

たとえ共同の事業とはいえ、陣頭に立つ者がいなければ、前進は覚束ない。もちろん、協力者はたくさんいる。だが矢面に立つのはひとりである。

＜社名にこめられた主張＞

大正3年生まれ、72歳。昭和6年に丁稚奉公から始め、創業は昭和22年。

社名を「清水金物株式会社」とした。この名前は、業界において二つの意味で画期的だった。名は体を現わす式で、社名に「金物」を入れたことと、初めから株式会社にしたことである。業界のほとんどが、「何々商店」の時代だった。その後、多くの追従社が出た。

革新者の気風がある。昨年、社名から金物の2字を外した。扱い品目が増えたのと、新時代に対応するためだ。

氏を語る場合、凡百の性格描写や生涯の出来事、また経営思念を積み重ねるよりも、もっと雄弁に語ってくれるものがある。

金物団地の存在がそれだ。

散文的な比喩が浮かんだ ── 牽引車。

人も、企業も。

シミズOBの方々からのメッセージ

創業７０周年おめでとうございます。
心よりお祝い申し上げます。

マルケン産業(株)
代表取締役 **青木 秀勝** 様
(東大阪支店)

マルケン産業(株)
青木 秀一 様
(東大阪支店)

(株)イワキ金物
代表取締役社長 **岩城 忠弘** 様
(東大阪支店)

宇佐美工業(株)
代表取締役 **宇佐美 雅行** 様
(東京支店)

(株)岡田商店
取締役会長 **岡田 浩義** 様
(東大阪支店)

静岡市議会
議長 **栗田 裕之** 様(クリタ商会)
(東大阪支店)

ダンドリビス(株)
代表取締役 **齋藤 健司** 様
(東京支店)

(株)タケダ
代表取締役 **武田 英昭** 様
(東京支店)

中尾金物店
代表取締役 **中尾 隆則** 様
(東京支店)

藤田螺子工業(株)
常務取締役 **藤田 守彦** 様
(東京支店)

古永社会保険労務士事務所
古永 義明 様
(本部)

(有)ヨシモト
取締役 **吉本 公信** 様
(名古屋支店・東大阪支店)

シミズOBを代表して

※五十音順・(　)内は在籍支店

シミズ70年のあゆみ

1947年1月

大阪市西成区西萩町7番地に本社を設置し、資本金18万円をもって、清水金物株式会社を設立、取締役社長に清水進一就任。

1962年

初出式
懐かしい顔ぶれです。

1951年に行われた第1回建築･利器合同見本市でのスナップ。

1964年

東京支店開設準備
お手伝いに出向いた、当時学生の清水会長と社長が右側に見えます。

大阪金物まつりのスナップ「何リットルの水がはいるでしょうか」と懸賞付の日本一の大湯わかしとジャンボ南京錠が人目をひく。

1964年1月

東京都荒川区西尾久7丁目21番地に東京支店を開設。

1964年12月

名古屋市西区天神山町2丁目25番地に名古屋支店を開設。

（写真は当時の名古屋店）天神山町では10年間お世話になりました。

1951年10月

金物問屋街大阪市南区南綿屋町11番地に本社及び営業所を新築移転。

1967年1月

三条市興野産業大通りに新潟支店を開設。

東大阪金物団地着工

1959年

社員旅行（北陸方面）

1967年9月

東大阪市金物町1番4号（金物団地）に鉄筋3階建の清水ビル完成。

出来事

1947年 マッカーサー元師の一声でゼネスト中止

1964年 東海道新幹線開通 東京オリンピック開催

1967年 ●ブーム／ミニスカート、グループサウンズ
●物価／米10g　1,180円　　新聞代580円

1968年 東京府中で3億円強奪事件

1968年12月

大阪市南区南綿屋町11番地に資本金3,000万円をもって系列会社「清水興産株式会社」を設立し、代表取締役に清水進一就任。

三条市長がテープカット。その後、毎回弊社新潟見本市開会式にて参列していただく。

1970年

ひかり会 総会
（安珍清姫ゆかりの道成寺にて）

1972年

創業25周年記念式典と家族大会。

1971年

入社式
今はベテランも
この頃は初々しい…。
（本社3階ホールにて）

各支店から奥様と子供たちも集まり大変賑やかでした。

1971年4月

新潟支店新社屋完成。

1973年

メーカー懇親会
（大阪高石市 新東洋にて）

常設展示場にて竣工記念見本市を開催。

1974年2月

名古屋市中川区押元町1丁目32番地に名古屋支店新社屋完成。

1971年 沖縄返還協定調印式
●物価／理髪代 690円

1972年 連合赤軍事件

1974年 佐藤前首相にノーベル平和賞

シミズ70年のあゆみ

1975年10月

福岡市博多区諸岡3丁目25番7号に福岡支店開設。

1977年7月

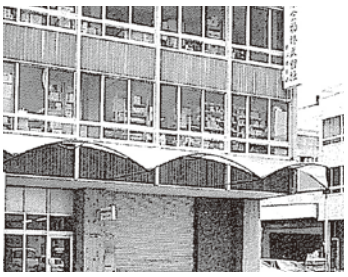
兵庫県三木市加佐117番地4に播州支店開設。

1977年

創業30周年記念行事。
全国の得意先対象の招待ツアー。海外ツアー第1陣は、台湾で観光とゴルフ。
国内ツアー組は、新潟見本市見学のあと越後路と佐渡観光。

ハイライトはカナダツアー。「動くホテル」といわれるデラックスなカナダ国鉄の旅。

奥様ツアー。
京都･奈良観光
いつまでも思い出として語り続けられている。



1978年5月

東大阪市金物町2番1号にDIY事業本部開設。

1978年

支店長会議。
緊張感漂う会議です。
（本社にて）

1979年

野球部。
創業者も野球が大好きでした。
この頃は強かった!
（今もがんばってますが）

1980年5月

東京都足立区江北7丁目6番3号に東京支店新社屋完成。

竣工披露と見本市が大々的に催され、漫才やラジオの公開録音も繰り込んできて大いに賑わう。

出来事

1975年 3億円事件時効成立
- ●物価／米10g 3,080円

1977年 日本赤軍が日航機をハイジャック
- ●スポーツ／王貞治756本の本塁打世界新記録
- ●ブーム／ピンクレディ

1978年 新東京国際空港開港
- ●スポーツ／西部ライオンズ誕生
- ●流行語／フィーバー
- ●ブーム／カラオケ、ディスコ
- ●物価／入浴料140円、新聞代2,000円

1982年1月

資本金1億円に増資。

1982年9月

仙台市六丁目春日社南9丁目1番地の502号に仙台営業所開設。

1982年11月

東大阪市金物町5番9号にDIY事業本部新社屋完成。

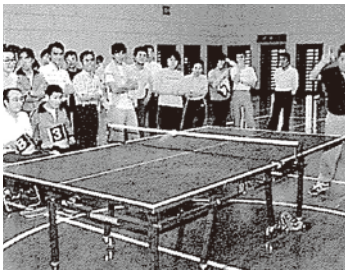
ショールームには150社の商品が展示され売り場と同じ展開で注目を浴びる。

1982年12月

札幌市豊平区平岸四条8丁目4番23号に札幌営業所開設。

1982年

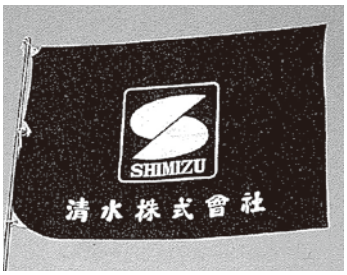
創業35周年記念式典。パーティー、スポーツ大会。伊勢市・三重厚生年金休暇センターで開催。全社員が参加。



卓球大会も盛り上がりました。

1984年5月

福岡市博多区諸岡3丁目25番21号に福岡支店新社屋完成。



1985年1月

清水株式会社に社名変更。

1985年3月

仙台市宮町4丁目3番14号に仙台営業所移転。

1987年11月

創業40周年記念の大イベントが沖縄で行われ全社員が参加。

沖縄衣装の女子社員が進行役。

1980年 静岡駅前地下街でガス爆発
第22回オリンピック大会(モスクワ)日本不参加
●ブーム／ルービックキューブ

1982年 上越新幹線開通(大宮ー新潟)
●物価／コーヒー280円

1984年 グリコ事件

1985年 日航ジャンボ機墜落
豊田商事事件
●ブーム／ファミコン

1987年 国鉄民営化(JR7社発足)
●物価／米10kg3,780円

シミズ70年のあゆみ

1988年10月

大阪店・貿易部・立体駐車場新築完成。（立体駐車場は、清水興産（株）に所属）

1992年11月

創業45周年記念
スポーツ大会
支店対抗スポーツ大会。
各支店の栄誉の為、
ガンバリました。
（兵庫県三木市グリーンピア三木）

1990年5月

札幌市白石区菊水元町7条3-4-5に札幌支店新社屋完成。

1993年6月25日

創業者　故清水進一会長
社葬／長居・臨南寺会館
「紫雲殿」。

1991年3月

社長　清水進一が代表取締役会長に、専務取締役清水宏祐が代表取締役社長に就任。

1993年8月

三条市塚野目719-1に
新潟支店新社屋完成。

1992年11月

創業45周年
創業者 清水進一夫妻へ
花束贈呈。

1997年

創業50周年記念
「感謝の集い」
社員だけでなく多くの
来賓・OBをお招きしての
記念式典。
（都ホテル大阪）

出来事

1988年　青函トンネル開業
　　本州―四国を結ぶ瀬戸大橋が開通

1991年　湾岸戦争
　　雲仙で大規模火砕流
　　統一地方選挙

1992年　バルセロナ五輪開催
　　毛利さん宇宙へ旅立ち
　　●ブーム／きんさん、ぎんさん

1993年　皇太子殿下と小和田雅子さま「結婚の儀」

1997年　消費税が5%に

2000年

総合カタログ
「金物百科」発刊。

2004年

第1回支店対抗
全社ボーリング大会。
大阪大会のワンショットです。

2005年

総合カタログ
「金物百科II」発刊。

2007年

創業60周年記念
新年互礼会を開催。

2008年

SOL HARDシリンダー
南京錠の総発売元として
販売事業を開始。

2008年

総合カタログ
「金物百科III」発刊。

2012年

創業65周年記念
全社一斉ボーリング大会
を開催。

2013年

清水宏祐が代表取締役会長に、清水修が代表取締役社長に就任。

2014年

総合カタログ
「金物百科IV」発刊。

2015年

ひかりニュース300号
発刊。

2017年

創業70周年。

2000年　沖縄サミット開催
　　二千円紙幣発行

2005年　郵政民営化

2008年　北海道洞爺湖サミット開催
　　日本でiPhoneが発売

2012年 東京スカイツリー開業

2014年 あべのハルカス開業

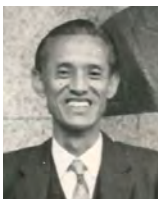
2015年 マイナンバー開始

本部

◇ シミズを支えてきた歴代の方々 ◇

創業者
清水 進一

2代目社長
清水 宏祐


専務
二見 誠良

常務
山本 芳治

企画部
米田 京

総務部
国領 允外志

貿易部
西羅 勇

貿易部
藤分 英夫

大阪店長
宮西 一利

社員集合写真

南区旧本社前にて

本社

東大阪支店

◇ 東大阪支店を支えてきた歴代の方々◇

初代支店長
内山 光隆

2代目支店長
田中 義人

3代目支店長
水杉 正美

社員集合写真

創業40周年記念
シミズフェア大阪見本市

東京支店

◇ 東京支店を支えてきた歴代の方々 ◇

初代支店長　白井 秀一郎

2代目支店長　奥村 訓章

3代目支店長　田中 義人

東京支店 社屋

社員集合写真

創業50周年記念シミズフェア東京見本市

DIY事業部

◇ DIY事業部を支えてきた歴代の方々 ◇

初代店長　清水 修

2代目店長　辻 孝俊

3代目店長　景原 靖

DIY事業部 社屋

社員集合写真

1980年 野球部
当時はDIY事業部のメンバーが中心でした。

新潟支店

◇新潟支店を支えてきた歴代の方々◇

写真上から順に
初代支店長 佐々木 康雄　2代目支店長 中野 道男　3代目支店長 荒井 四朗

社員集合写真

新潟支店 社屋

創業30周年記念シミズフェア
新潟大見本市

名古屋支店

◇名古屋支店を支えてきた歴代の方々◇

初代支店長
森 善蔵

2代目支店長
坂本 義明

社員集合写真

名古屋支店 社屋

シミズフェア 第1回 名古屋見本市

播州支店

◇播州支店を支えてきた歴代の方々◇

初代支店長
西井 崇雄

2代目支店長
永尾 千好

社員集合写真

播州支店
社屋

シミズフェア第29回
播州見本市

福岡支店

◇福岡支店を支えてきた歴代の方々◇

写真上から順に

初代支店長	2代目支店長	3代目支店長
秀平　護	砂田　誠	松丸 浩二

社員集合写真

福岡支店 社屋

創業50周年記念旅行

札幌支店

◇札幌支店を支えてきた歴代の方々◇

初代支店長
中野 道男

2代目支店長
荒井 四朗

社員集合写真

札幌支店 社屋

1982年 札幌支店開設記念パーティー

仙台営業所

◇仙台営業所を支えてきた歴代の方◇

初代所長　上杉 達男

社員集合写真

仙台営業所 社屋

東日本大震災、被災後の3月18日に安田（株）
札幌支店様より救援物資をいただきました。
誠にありがとうございました。

お取引先懇談会・見本市部会総会　10月21日 ANAクラウンプラザホテル大阪

会場風景

シミズフェア2016年展示・提案賞

(株)サヌキ様

ケージーパルテック(株)様

ダンドリビス(株)様

講演会

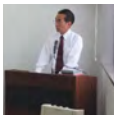
「二度と聞けない!」『今日からできる安全運転の指導方法』

講師:株式会社プロデキューブ 代表取締役 高柳勝二 様

全国幹部会議　10月21日・22日

全支店の幹部社員が大阪に集合
有意義な2日間でした

5S活動表彰


部署リーダーによる発表

第69回ひかり会総会　伊勢／11月11日・12日

伊勢神宮・宇治橋前での集合写真

近鉄特急「しまかぜ」にて

ひかり会
事業報告

歳男随想

東京支店
半澤栄一

新年あけましておめでとうございます。
昨年は、お得意先様、仕入先様、またその他多くの方に支えられ、大変お世話になり有難うございます。
昨年の印象深かった出来事として、広島カープの25年ぶりのリーグ優勝があります。カープファンではないですが、何故か嬉しかったです。また、流行語大賞も緒方監督のコメントで発した“神ってる”が受賞しました。
　話は変わりますが、私は、趣味で登山をしております。皆様は、東京都最高峰の山をご存知でしょうか？東京、埼玉、山梨の都県境に聳え、日本百名山に数えられる“雲取山”です。360度、展望の見渡せるすばらしい山です。また、標高は、“2017m”、今年一発目の登山は、雲取山に決めてます。そして、今年一年、皆様と協働し、手を取り合い、東京でナンバー1を目指し、全力で取り組んでいきたいと思います。
最後になりますが、2017年が、皆様にとってすばらしい年になる事を心よりお祈り申し上げます。

福岡支店
吉村直樹

新年明けましておめでとうございます。日頃から得意先、メーカーの皆様には温かいご支援をいただき大変感謝しております。
昨年は熊本地震が発生し、その後も各地で地震があり自然の恐ろしさを痛感し、今後、自然災害とどう向き合っていくのか、自分には何が出来るか考え、防災について深く考える1年になりました。
昨年はリオオリンピックがありました。アスリートのひた向きさや流す涙に感動をもらい、自分も社会人としての金メダルを目指そうと奮起しました。日々の精進が結果を出すのだと改めて感じました。
今年の干支の考え方では、酉のつく年は商売繁盛につながる、運気を酉(とり)込むと言われています。
酉年は商売人にとって実りある1年になる予感のある年、運気や有効な情報を酉(とり)込み自分にとっても実りある年にしたいと思っております。
最後になりましたが、今年は弊社清水株式会社創業70周年目という記念すべき年になります。
70周年というAnniversary　yearを盛大に盛り上げていき、80年、90年、100年とさらなる飛躍を目指して精進していきます。どうぞ今年皆様にとって、良い年になりますようにお祈り申し上げます。

過去の出版物

あさにけに
創業者 清水進一の著書。
世の中の激しい移り変りを
ひとりの商人の目で見、
肌で感じたことや、朝礼で
話されたことなどを
書き残したもの。

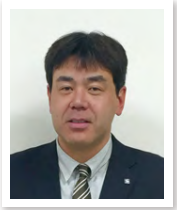
金物百科:シミズの重要な販促ツール。
現在四冊目となります。

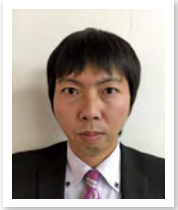
金物百科以前の
商品カタログ

2016年度 優良社員表彰

販売成績優秀賞

加賀　泰輔（DIY事業部）
吉村　直樹（福岡支店）
大熊　幸久（東大阪支店）
古谷　宗大（東大阪支店）
平岡　竜司（東京支店）


加賀さん


吉村さん

大熊さん

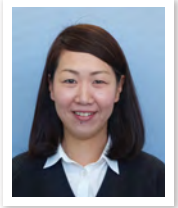
古谷さん

平岡さん

優秀スタッフ賞

宗村　浩昭（新潟支店）
森　啓子（本部）

宗村さん


森さん

努力賞

下野　厚志（札幌支店）
山本　泰士（東京支店）
山口　功嘉（名古屋支店）

下野さん

山本さん

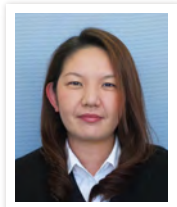
山口さん

進歩賞

鎌田　健宏（福岡支店）
高野　浩高（新潟支店）
大下　充美（東大阪支店）

鎌田さん

高野さん


大下さん

田村さん

新人賞

田村　啓（東京支店）

おめでとうございました

1月4日付 辞令

係長を命ず

加賀　泰輔
（DIY事業部）

センター長を命ず

下野　厚志
（新潟物流センター）

おかげさまで70年
絆これからも
Let's Advance 2017
シミズフェア2017
創業70周年記念見本市

第38回 **東京見本市** 2月25日(土)
すみだリバーサイドホール イベントホール（墨田区役所隣）

第46回 **大阪見本市** 4月8日(土)
大阪マーチャンダイズ・マートビル 2階 Cホール

第39回 **九州見本市** 5月13日(土)
博多スターレーン2F Bホール

第37回 **名古屋見本市** 6月3日(土)
名古屋市中小企業振興会館 吹上ホール 9F 展望ホール

第47回 **新潟見本市** 7月8日(土)
燕三条地場産センターメッセピア 多目的ホール

高級建築金物・インテリア金物・DIY用品
清水株式會社 www.shimizu-net.co.jp

統括本部	TEL(06)6723−8537	FAX(06)6723−1990	東京支店	TEL(03)3854−1001	FAX(03)3854−1007
東大阪支店	TEL(06)6723−1975	FAX(06)6723−1979	名古屋支店	TEL(052)362−5281	FAX(052)362−5283
DIY事業部	TEL(06)6723−1971	FAX(06)6724−3111	新潟支店	TEL(0256)32−3978	FAX(0256)34−3457
インテリア事業部	TEL(06)6723−9573	FAX(06)6723−9574	福岡支店	TEL(092)582−2871	FAX(092)582−2873
貿易部	TEL(06)6723−8637	FAX(06)6723−1990	札幌支店	TEL(011)874−2521	FAX(011)874−2524
播州支店	TEL(0794)82−6400	FAX(0794)82−6402	仙台営業所	TEL(022)390−5559	FAX(022)287−6444